

第二次松戸市社会教育計画 計画事業の見直し(案)への意見内容と意見に対する市の考え方

第二次松戸市社会教育計画 計画事業の見直し(案)に関する意見を募集したところ、市民の皆さまからご意見をいただきました。お寄せいただいたご意見とそのご意見に対する本市の考え方について、次のとおりまとめましたので、公表します。

パブリックコメント実施手続結果の概要

- 1 意見募集期間 令和8年1月5日(月)～令和8年2月4日(水)
- 2 意見提出者数 8名
- 3 意見件数 31件
- 4 意見の内容 下表のとおり

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
1	2	新旧対照表 《No.13》	担当課の変更にともなう事項は(削除)ではやはり誤解を招く可能性があるように思いますので、丁寧にお知らせする言葉に置き換えたほうがスムーズだと思います。	松戸市総合計画の見直しに伴う政策体系の整理及び事業の休止のため本計画からは削除しますが、代替として新たに市民や地域団体が主体となる発表の場づくりを支援する事業を展開します。	無
2	3	新旧対照表 《No.17》	学びの拠点、青少年が個人の学習等に利用できる日や場所を拡大し・・・という話。本当に松戸は学ぶ場所が少ないので、たくさんある市民センターの空き会議室を活用してもらえないかしら・・・。協働推進計画のパブコメも同時募集しているので、両方にコメントしたらいいのかしら・・・。	学びの拠点として、青少年がさらに利用しやすい施設となるよう、今後の事業展開の参考とさせていただきます。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
3	3	新旧対照表 《No. 18、22》	事業内容の解説を実施の目的と、その為の方策や効果などに文を分けても内容は変わらず伝わりやすいのではないかと個人的には思います。このままでも伝わりますが、18 家庭教育事業を推進します。22 機会の充実を図ります。のところで文節しても端的に伝わるとと思います。ご検討ください。	18→17 他課の事業も含め他項目でも同様な言い回しがあるため、このままといたします。 22→21 ご指摘のとおり、文言を修正します。	有
4	3	新旧対照表 《No. 20》	「ユーザビリティ」は意味合いが広いので、妥当なんでしょうか。「利便性」では狭義となってしまい思いが伝わらないのでしょうか。ユーザビリティが一般的な言葉として浸透しているかが気になります。	よりわかりやすい文言とするため、「利便性」に変更いたします。	有
5	4	新旧対照表 《No. 35》	(仮称)生涯学習人材バンクの開設の話が立ち消え、部活動の地域展開の話にすり替えられてしまったのが非常に残念。ぜひ生涯学習人材バンクは実施してほしい。	国による「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」最終とりまとめにおいても、「急激な少子化が進む中でも、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保・充実」が謳われており、喫緊の課題であると認識しているため、事業変更を行いました。ご意見については、今後の社会教育事業に対する貴重なご意見として賜ります。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
6	5	新旧対照表 《No. 42》	<p>基礎学力相当の教科を学び直す講座の名称が「やさしい教養講座」では内容が伝わらないと思います。または、間違った解釈をされるのではないかと懸念します。教養は文学、歴史、芸術など幅広い分野の社会人向けの知識です。しかし、先日の会議では事業名称に書かれている通り、基礎学力相当の学び直しが講座の内容だと説明されました。</p> <p>例えば「基礎学習の学び直し講座」という名称でしたら、誤解されること無く本当に必要とする方に提供できるのではないのでしょうか。「やさしい教養講座」もその文字通りの講座にも需要はあると思います。</p>	<p>現在、「やさしい教養講座」を募集する際に教科名も併せて記載しているため、今のところ受講者からの不満や誤認の声は届いておりませんが、より市民にわかりやすい名称となるよう今後検討してまいります。</p>	無
7	1	第1章計画の概要 2 計画の位置づけ	<p>計画の位置づけに記載されている、参酌した県の計画に「千葉県生涯学習推進方針」を追記してはいかがでしょうか。本方針は、本計画の策定後の令和5年5月に策定されたものであり、県内の生涯学習推進・社会教育振興を方向付けるものであることから、今後の計画見直しにも影響を与えるものと考えます。</p>	<p>第二次松戸市社会教育計画は、令和5年3月に策定しており、「千葉県生涯学習推進方針」は、その後の令和5年5月に策定されたものです。今回の見直しは、計画事業の見直しを目的とするため、計画の位置づけに対する追加等を行いませんが、令和13年以降に次期計画を策定する場合は、国や県の関連計画等をふまえて検討してまいります。</p>	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
8	20 ～ 21	I-1-1 文化財の保存や活用による歴史的・文化的資源への興味・関心を高めます	地形を学ぶ講座を企画したらどうか。地形を学ぶことで、自然災害や暮らし方の変化、開発行為による人間の生活がどう変化したか等を学ぶことができる。旧石器時代の物も出土しているので、旧石器に関する講座も企画をお願いしたい。松戸にも縄文時代より前の時代に人が暮らしていたということを知る機会になる。	地形と自然災害、人間の活動についてはご指摘の通り深い関りがあり、研究も蓄積されています。また、旧石器時代も市立博物館に展示がありますので、それらを活用し、学びにつなげていきたいと考えております。令和8年秋の館蔵資料展では一部で旧石器時代の展示を行います。	無
9	25	I-2-1 豊かな教養を育む機会の充実を図ります 《No.13》	「生涯学習講座の実施」について 本題に入る前に、この計画の基本理念としている「ことばを育み 人がつながる 学びの松戸」、この考え方を大切にしていきたいと思えます。「ことば」と「つながり」、社会教育において大切にしたいこのキーワードは、人と人、人と地域を結びつける原点であると考えます。さて、「生涯学習講座の実施」についてです。社会教育（生涯教育）＝講座の開催、これは、多くの自治体でみられる「社会教育」の定型パターンです。もちろん、多くの市民が趣味や実務に有用となる講座の開催を望んでいることは事実です。ただ、豊かな教養を育む機会が「講座の実施」のみにとどまってしまうのは残念です。『リベラルアーツ』に関する論考を待つまでもなく、自らのアンテナにピンときたものに対して、自らが学んでいく姿勢が人生を豊かにします。ただし、人生100年時代とはいえ、自力で「ピンとくる」ものをとらえる機会は限られます。このような学びの機会を「講座」という形式にとらわれずに、日常生活の中から見つけることができれば、人生を豊かにすることができるはずで、「社会教育士」、学び	今後の社会教育事業に対する貴重なご意見として賜ります。	無

		<p>の機会を創出する専門人財の存在をクローズアップしていただきたいと考えます。多様な市民、しかも、松戸市のような人口 50 万をかかえる都市において、市役所の一部門がいくら奮闘しても、そのニーズのすべてに対応することは困難です。「社会教育士」の役割は、学びの土壌づくりです。地域の中であって、人と人をゆるやかにつなげるところから活動を始めます。良い土壌の無いところに、美しい花は咲きませんし、豊かな作物も生まれません。このため、土壌を作る人財としての社会教育士を育成するところから始めてみてはいかがでしょうか。松戸市は市民活動がたいへん盛んな土地柄です。土壌ができて、市民活動にかかわる多くの人財がつながることで、もしかしたら、指数関数的に豊かな学びの機会が増えるかもしれません。社会教育＝講座、という立ち位置から少し視点を変えて、社会教育人財を育成し、積極的の登用する方向も市の社会教育行政の視界に入れていただければと思います。</p>	
--	--	--	--

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
10	26	I-2-2 青少年に多様な体験や交流、学びの機会の充実を図ります《No.15》	目標値をこれまでの2,400 から3,400 に上方修正した理由（現状値：1,552人） 現状値がこれまでの目標値に到達していません。それにも関わらず上方修正した理由は何かを明記すべきと考えます。	1,552人は令和4年度の実績値です。 令和6年度実績は、3,244人となっており、本計画策定時の目標を達成していることから、目標値を上方修正したものです。	無
11	26	I-2-2 青少年に多様な体験や交流、学びの機会の充実を図ります《No.16》	目標値をこれまでの82,000 から118,000 に上方修正した理由（現状値：48,100人） 現状値がこれまでの目標値に到達していません。 それにも関わらず上方修正した理由は何かを明記すべきと考えます。	48,100人は令和4年度の実績値です。 令和6年度実績で、117,162人となっており、本計画策定時の目標を達成していることから、目標値を上方修正したものです。	無
12	27	I-2-4 市民の文化・芸術活動や自主的な学びの充実を図ります《No.19》	目標値をこれまでの50,000 から165,000 に上方修正した理由（現状値：25,074件） 現状値がこれまでの目標値に到達していません。 それにも関わらず上方修正した理由は何かを明記すべきと考えます。	令和6年度実績で、154,308件と本計画策定時の目標値に達しているため、目標値の上方修正を行いました。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
13	29 ～ 32	基本施策Ⅱ-1 学びたいときに学べる環境をつくります	図書館機能の向上と高度専門職の配置（Ⅱ-1 関連） 松戸市の図書館は貸出回転率が非常に高く、蔵書の約7割が大人向けであるという生涯学習の強い基盤があります。この機能を維持・向上させるため、運営は「直営」を継続し、従来の司書スキルに加え、AI やプロンプトエンジニアリングを駆使して高度な情報提供ができる専門職、および「社会教育士」を配置して、市民活動と学びを有機的に繋げてください。	生成 AI 等が普及する時代において、情報の真偽を見極める力は重要になっております。根拠に基づいた適切な情報へのアクセスを支援する能力を基盤としつつ、急速な社会変化に対応できるよう、図書館職員の資質向上に努めてまいります。併せて、司書のみが全てを完結させるのではなく、関係各所との適切な連携を図ってまいります。運営方法及び社会教育士の配置については、参考ご意見とさせていただきます。	無
14	29 ～ 32	基本施策Ⅱ-1 学びたいときに学べる環境をつくります	学校の空き教室を活用した「分散型蔵書保管」の模索（Ⅱ-1、Ⅰ-4 関連） 物理的な蔵書スペースの不足に対し、少子化や統廃合に伴う「学校の空き教室」の有効活用を提案します。空き教室を蔵書保管の拠点として活用し、学校図書館との連携を深めることで、子どもたちが日常的に多様な専門資料に触れる環境を整えてください。これは効率的な資産活用であると同時に、学校を地域コミュニティの知の拠点として再定義する一助となります。	ご意見ありがとうございます。学校施設を地域コミュニティの拠点として活用し、教育資源を有効利用するという視点は、今後ますます必要になるものと認識しておりますが、学校における管理運営面等の課題整理が必要ですので、今後の施設活用のあり方を検討していく上で参考とさせていただきます。図書館としましては、学校への団体貸出や配送サービスの充実などを通じて、子どもたちがより多様で専門性のある資料に触れられる環境づくりを進めてまいります。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
15	29 ～ 32	基本施策Ⅱ-1 学びたいときに学べる環境をつくります	即効性のある「共創の場」の創出(Ⅱ-1 関連) 市民センター等に併設された分館において、センター内の会議室を「図書館のコモンスペース(調べ物や議論の場)」として柔軟に開放・活用できるようルールを整備してください。対話可能な「動的な知の拠点」としての整備を求めます。	市民センター内の会議室等を活用し「動的な知の拠点」をつくるのご意見は、既存施設の有効活用の観点から有意義なものと認識しております。施設管理上の調整は必要ですが、今後の施設運営やルールづくりの参考といたします。	無
16	29	Ⅱ-1-1 図書館機能を向上させ、文化・社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます《No. 23》	図書館全館に自動貸出機設置するようですが、耐震性が不足する図書館本館にも設置するのでしょうか。	「現状1か所」の記載は、本計画策定時(令和5年3月)の数値でございます。令和7年度現在、自動貸出機は、本館(子ども読書活動推進センターを含む)、東松戸地域館、小金分館、新松戸分館の計4館に設置済みでございます。今後も設置にあたっては、安全性に十分配慮してまいります。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
17	29 ～ 30	基本施策Ⅱ-1-1 図書館機能を向上させ、文化、社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます	<p>松戸市図書館整備計画に、地域館構想があります。東松戸図書館はその一つですが、新松戸にも地域館を整備する構想があると思います。今、松戸市の施行で「新松戸駅東側土地区画整理事業」が進行中ですが、松戸市で初めての、立体換地による土地区画整理事業であるとして、14階建てマンションを松戸市が建てるそうです。新松戸駅東側地区の市民の声に応じて、公共施設・公的施設を入れる事業ですが、マンションの中に松戸市の図書館をつくと計画されています。当初の計画の中の図書館は、かなりの広さがあったのですが、第一回の計画変更でだいぶ狭くなってしまいましたが、まだ、図書館がマンションの図面の中にあります。この土地区画整理事業で作られるという図書館は図書館整備計画の中の地域館として位置づけられていないと思います。どちらも松戸市の事業ですから、図書館が関わることなく進んでいくことに不満があります。このマンションの中に地域館が整備された場合、新松戸市民センターの中に今ある図書館分館と子どもの図書館はどうなるのか、何の説明もありません。図書館は関わっていないとも聞いています。この社会教育計画 計画事業の見直しの中にきちんと示してください。</p>	<p>新松戸駅東側土地区画整理事業における公共施設の整備につきましては、図書館機能が想定されておりますが、現時点では決定したものではありません。松戸市立図書館の整備については、「松戸市図書館整備計画」に基づき進めており、新松戸分館を含めた図書館全体のあり方についても、今後の検討事項としております。いただいたご意見は、今後の図書館整備の参考とさせていただきます。</p>	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
18	30	Ⅱ-1-1 図書館機能を向上させ、文化・社会教育施設と連携した学びやすい環境づくりを進めます《No. 25》	25、資料の利活用における関係機関との連携 市立図書館と学校図書館の連携についてはこの計画の中に書かれていますが、松戸市には、他の部署や機関に蔵書があります。例えば、議会図書室、男女共同参画センターの図書室です。また、行政資料センターには松戸市の資料が所蔵されています。他にもあると思います。私は、男女共同参画センターの会議で、図書館と連携すべきだと提言したのですが、一向に進む様子がありません。この社会教育計画の事業として、図書館の事業の一つとして各部署・各機関が所蔵している図書について調査し、データを共有し、利活用できるシステムを作ってください。	ご意見ありがとうございます。各部署が独自に管理・運用している資料について、全庁的に横断した調査・データ共有の仕組みを整備するためには、システム面・運用面・費用面などにおける課題の整理が必要と考えます。ご意見は、社会教育の充実や生涯学習環境の向上につながる重要な視点であり、関係部署との連携の可能性も含め、今後の施策検討の参考とさせていただきます。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
19	31	Ⅱ-1-3 「21世紀の森と広場」周辺の文化施設の交流を推進します<<No. 27>>	松戸市において、『21世紀の森と広場』は松戸の自然と生態系を保全している貴重な施設です。子どもたちはもちろん、大人にとっても自然学習の場にふさわしいです。単なる文化施設との位置づけではなく、自然学習、自然体験の場として位置づけてください。	ご指摘のありました千駄堀地区 3 館連携文化交流事業では、21世紀の森と広場、博物館、森のホール 21 が連携し、文化交流拠点の一角として恵まれた自然環境の中で「音楽・芸術」「自然」「歴史・文化」を味わえるコンテンツやイベントを提供しております。	無
20	32	Ⅱ-1-4 文化・社会教育施設とスポーツ施設の老朽化対応及び再整備を進めます<<No. 29>>	「ヒアリング等を実施しながら、計画の策定を…」とありますが、具体的に何の計画なのでしょう。	青少年会館やタウンスクール根木内等の長寿命化計画を指していることから、事業内容の文言に「長寿命化」を追加します。	有
21	34	Ⅱ-2-4 文化・社会教育と学校教育の連携を推進します<<No. 32>>	図書館と学校図書館の連携について記載していますが、学校図書館機能そのものについて記述する項目はないのでしょうか。	本項目は、担当課である図書館が実施している幼児・児童の読書普及事業を記載しているため、学校図書館機能そのものについての記述は含んでおりませんが、指標として「学校貸出実施校数」を位置付けているのは、学校図書館との連携を一層推進し、その機能を補完・強化することを目的としています。図書館としましては、蔵書や専門性を活かして情報・資料を提供することで、子どもたちの主体的な学びを支えてまいります。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
22	35	基本施策Ⅲ-1 多様な主体の連携・協働で学びを支えます	全体を見ても、『環境教育』について載っていないと思います。「多様な主体」の中に入っていると良いのですが、私の知っているだけでも、里山保全活動団体や花壇づくりボランティア、河川愛護団体があります。他にも環境系の団体はあると思います。今でも、小・中・高校との連携で活動している事例もありますが、この計画の中に正式に入れるべきだと思います。SDGs 等については少し触れていますが、気候変動が地球規模の大きな課題となっている時代に合わせて、社会教育の内容も変わらなくてはならないと思います。	今後の社会教育事業に対する貴重なご意見として賜ります。	無
23	35	Ⅲ-1-1 学校・家庭・地域の連携や多様な人材の幅広い活躍により地域の教育力を向上させます「No. 33」	指標を「市内小中学校ボランティア受け入れ学校の割合」とされています。総合計画でそうなっているのであればやむを得ないかもしれませんが、ボランティア活動は継続できることが重要です。受け入れる学校の割合だけで判断するのではなく、活動実態を指標にすることを要望します。	貴重なご意見ありがとうございます。ご指摘の内容につきましては、然るべき見直しの時期に、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の推進を確認できる指標への変更を検討してまいります。	無
24	35	Ⅲ-1-1 学校・家庭・地域の連携や多様な人材の幅広い活躍により地域の教育力を向上させます「No. 33」	文科省が提唱する「地域とともにある学校」の実現こそが、事業内容に合致すると思います。しがたって、指標は「市内小中学校ボランティア受け入れ学校の割合」ではなく、「コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を設置する小中学校の割合」に変更すべきと考えます。	貴重なご意見ありがとうございます。ご指摘の内容につきましては、然るべき見直しの時期に、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の推進を確認できる指標への変更を検討してまいります。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
25	35	Ⅲ-1-1 学校・家庭・地域の連携や多様な人材の幅広い活躍により地域の教育力を向上させます	令和5年5月に策定された「千葉県生涯学習推進方針」を踏まえ、「社会教育士」の活用についての事業も加える必要があるのではないかと考えます。地域において中核的な役割をはたす社会教育の専門人材である社会教育士の公民館等への配置、社会教育士の称号取得者の把握・活用など、国・県の動向を踏まえた事業展開を進めていただきたいです。	今後の社会教育事業に対する貴重なご意見として賜ります。	無
26	35	Ⅲ-1-1 学校・家庭・地域の連携や多様な人材の幅広い活躍により地域の教育力を向上させます	「生涯学習人材バンク」事業の削除に対する疑問と再考(Ⅲ-1-1 関連) 今回の見直しで、旧事業35「(仮称)生涯学習人材バンク」が削除され、事業34「部活動の地域展開」等へ差し替えられたことは大変遺憾です。市民が学びの成果を学校ボランティア等に活かすマッチングの仕組みは、市民活動が盛んな松戸市において不可欠なものです。部活動の地域展開も重要ですが、市民の自発的な「教えたい・役立ちたい」という意欲をすくい上げる仕組みを、改めて本計画の中に位置づけるべきだと考えます。	国による「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」最終とりまとめにおいても、「急激な少子化が進む中でも、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保・充実」が謳われており、喫緊の課題であると認識しているため、事業変更を行いました。ご意見については、今後の社会教育事業に対する貴重なご意見として賜ります。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
27	35	Ⅲ-1-1 学校・家庭・地域の連携や多様な人材の幅広い活躍により地域の教育力を向上させます「No. 33」	<p>「子どもたちの学びと成長を支える学校・家庭・地域の連携・協働体制の構築」について 部活動の地域展開が全国の多くの地域で進んでいます。このような動きの中で、学校と地域の壁は今後、少しずつ低くなっていくように思えます。コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)への賛否はあるものの、学校が抱えている役割を少し地域に展開してもよいのではないのでしょうか。</p> <p>「学校と地域の連携」は、言葉では簡単ですが、学校側の思惑と地域側(特に個人の)思惑とが衝突することもあり、なかなか思うようには進まないはずで、このため、まず手始めに地域に人財を育てるところから始めてみることをおすすめしたいです。学校と交わっていくための地域の土壌づくりといってもよいかもしれません。このことは、学校によるボランティア受け入れとは異なります。まず、地域が学校を知るところからスタートするということになります。ここでいう「地域」としての構成員は、「地域の名士」ではありません。地域には、一定数の割合で、地域に貢献したいと思っている層の方が存在します。50万人の松戸市では、わずか1%程度であったとしても、かなりの人数です。この人たちをまず育てるところから始めていきます。年齢層はさまざまであって良いと思います。小学生からの参加も期待すべきでしょう。小学6年生は8年後に二十歳です。「地域に人財がない」と嘆く前に、まず土壌作りからじっくり取り組んでいきたいです。良い土がなければ、収穫は見込めないことと同じです。(かなり以前、千葉大園芸</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今後の事業を進めるにあたり、参考とさせていただきます。</p>	無

		<p>学部の公開講座で学ばせていただきました。) ここで、人財を育てる役割を担うのが「社会教育士」です。中教審や文科省社会教育人材養成の関する部会の答申にもある通り、「社会教育士」には、学びのオーガナイザーとしての役割を地域と学校というステージで演じることが求められています。「子どもたちの学びと成長を支える学校・家庭・地域の連携・協働」という言葉を呪文のように唱えても、決して成果は生まれません。地域は学校のお客さまではありません。いっしょになって汗をかく存在であるという認識です。そのためにも、地域が自ら学ぶという活動がその前提となって来るはずで す。「社会教育士」の活動の場を行政としてもご検討、ご支援いただければと考えます。</p>	
--	--	--	--

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
28	38	Ⅲ-2-3 学び直しへのチャレンジを支援します《No. 42》	下方修正した理由について 「やさしい教養講座」の開催数の目標をこれまでの200回から164回に下方修正した理由を何か明記すべきと考えます。	当該講座はほぼ通年で開催しており、受講生の受講状況や講師と円滑なコミュニケーションの確保の観点から、現状より回数を増やすことは難しく、現状の回数が適正であるため、令和6年度実績の164回を維持する目標値に見直しました。	無
29	39	2 重点目標 視点Ⅰ 学ぶ内容・機会「何を学ぶ」における重点目標 重点目標①市の歴史文化や文化財についての学びを通じて、地域の価値や魅力を知り、継承できるようにします	松戸市は昨年、市長が変わり、財政の見直しが行われた結果、きびしい財政状況が明らかになりました。市の貯金である財政調整基金もわずか80億円しかなく、市庁舎建て替えやクリーンセンター建て替えが目前に迫り、公共施設の老朽化対策、松戸市立の総合医療センターの赤字、上下水道事業の赤字など、苦しい財政の中での社会教育計画、計画事業の見直しとなっています。そうした財政状況の中、5億円の価値があると鑑定されたものの、維持管理だけでもかなりの費用がかかる寄付を受けてしまった『マイセン陶磁器』をどうするのか、たいへん気になります。マイセン陶磁器は、松戸市の歴史にも文化にも何のゆかりもないものです。この計画では、松戸市の歴史と文化財を継承することが重要だと位置づけられています。そのためにもムダな費用を使ってほしくありません。	ご意見は今後の取り組みの参考とさせていただきます。	無

No.	頁	項目	ご意見	意見に対する市の考え方	修正の有無
30	20 ～ 38	計画全般にかかること	現状データについて、年度の記載のないものは令和3年度とされていますが、最新のデータを反映すべきものと考えます。	本計画は、令和5年度から令和12年度までを計画期間とし、今回の見直しは計画事業の見直しを行うものです。そのため、現状データは計画策定時点のものを記載しておりますが、ご指摘のとおり時点がわかりにくいことから、「現状」の表記を「計画策定時」に修正します。	有
31	-	基本施策 I-4 子どもたちに知徳体バランスの取れた「生きる力」を育みます	読書バリアフリー「りんごの棚」の周知と普及(I-4 関連)「学習の基盤となる能力の育成」に関連し、市立図書館が取り組む「りんごの棚」の周知を、学校図書館との連携においても強力に推進してください。障害の有無に関わらず、すべての市民が「ことば」に触れられる環境整備は、計画の基本理念に直結する重要な施策です。	本市図書館では、年齢や特性を問わず、より多くの方に本を楽しんでいただくことを目的として、「本の楽しみ方サポートコーナー」を東松戸地域館に設置しております。「りんごの棚」については、その趣旨を理解しておりますが、本市図書館の「本の楽しみ方サポートコーナー」の周知に努めてまいりたいと考えております。	無